

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100402		
法人名	有限会社 EAST		
事業所名	グループホームらく楽新田		
所在地	高松市新田町1144番地3		
自己評価作成日	平成 29年 9月 29日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成29年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた穏やかな雰囲気の中で、入居者様ひとりひとりのペースでゆっくり生活していただいている。「新田マルシェ」を開催して、家族や近隣の方を招待し、ボランティアの方の余興や、軽食等を楽しんでいただいている。敷地内に地域の方が気軽に入って来られる雰囲気になっている。グループホームらく楽新田だけでなく、グループ内のクリニック(内科・外科・泌尿器科・リハビリテーション科)、歯科、保育園、幼稚園、住宅型有料老人ホーム、デイサービス、訪問介護事業所、本社等と協力しながら運営されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所は小高い場所にあり、北側には屋島が展望でき、周囲の田畑や花木等の自然に恵まれた静かな環境にある。共用室や居室は広くて安全面も考慮されており、全体的にゆったりと過ごせる雰囲気である。開設から9か月であるが「新田マルシェ」を開催し、家族や地区の方を招待したり、日本舞踊や幼稚園児の訪問を受けるなど、地域との繋がりを大切に地域に根差した活動を徐々に拡大しつつある。職員は理念を尊重しながら、いきいきとやりがいを持って楽しく働いている姿勢が感じられるとともに、職員間でも自由に意見を言いやすい雰囲気である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を唱和し、実践に向けて取り組んでいる。理念①安らぎ、喜び、尊厳のある生活。②地域に根ざした愛されるホーム。③社会的責任を認識した安定的な運営。	同法人内のグループホームの理念を参考に職員間で話し合い、理解しやすい簡潔な言葉の理念を作成した。職員は朝礼時に唱和を行い、理念を確認しながら実践に繋げるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の方や家族を招待して、「新田マルシェ」「らく楽新田まつり」を開催している。近所の方が子供を連れて、敷地内で昆虫採集をしたり、敷地内を近道として通行されている。	「新田マルシェ」の開催時には高校生のボランティアの協力を得て、家族や地区の方を招待したり、年1回「らく楽新田まつり」の開催、日本舞踊や幼稚園児のボランティアの訪問を受けている。事業所内の敷地を昆虫採取や桜の花の見学、また近道として利用するなど地域に開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「新田マルシェ」の開催時等に、希望者に認知症についての資料をコピーして渡したり、説明する等認知症についての理解を深めてもらう様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。民生委員、地域包括支援センターの方が参加され、状況報告、意見交換を行っている。議事録を回覧し、職員全体に周知しサービス向上に活かしている。	地区の民生委員や行政職員、利用者代表をメンバーとして2か月に1回開催し、利用者や職員の現況や月間行事実績等の報告を行い、意見交換を行っている。	事業所からの報告とともに、参加メンバーが積極的に意見交換を行い、サービス向上に繋がるような運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報公開をしている。実践報告を通しての指導もある。また、本部から市へ取り組み状況を連絡するシステムがある。	運営推進会議で市との情報を共有している。他の事案については、基本的には本部に報告を行い、本部を通して市との連携を図るシステムとなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。エレベーターの施錠を行っていないので、時に2階に行かれる入居者もいるが、連携を取って対応している。職員の勉強会で研修を実施している。	身体拘束に関する研修会を事業所内では最近の情報等を参考に実施するとともに、年1回の法人内の研究発表会や勉強会等の合同研修会に参加し、身体拘束に関する知識を深め、ケアに活かせるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞等で、虐待や事故のニュースがあった時には、話題にして注意喚起している。職員の勉強会で研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員を香川県認知症介護実践研修等の外部研修に積極的に参加させている。日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご本人、ご家族に重要事項説明書を一緒に見ていただきながら、十分な説明を行って、理解していただいている。契約後の質問にも対応している。改定の場合は、面会時やサービス担当者会議等で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設へ直接、言いにくい事があると思われるので、意見箱を設置している。意見・不満・苦情を聞き前向きに生かすようにしている。	意見箱の設置、面会時に利用者や家族から意見や要望を表出できる機会を設けている。主な意見は利用者や家族からの個別的な対応に関するものであり、ケアプランなどに反映している。家族には口頭にて回答や説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や職員用の意見箱を設置し、現場の職員の意見を十分に聞き職員の声に耳を傾け、活かすことで、働く意欲の向上や質を行っている。また意見の出やすいような雰囲気作りを努めている。	日常の業務の中や2か月に1回の職員会議、業務改善会議、職員用の意見箱の設置、年2回の管理者との面談などで職員が意見や提案を言える機会を設けており、意見を反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員のやりたい業務や改善点を会議で話し合い、実現可能か優先順位等を考慮し、できるものは、しっかりと話し合い取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員通しで注意喚起ができる様な雰囲気作りをし、お互いが高めあえる様な意識を持って業務ができる様に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員を香川県認知症介護実践研修等の外部研修に積極的に参加させて、他の事業所職員と交流する機会を設けている。他の事業所から入居者の紹介をいただく事もある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談をし、ご本人の状態把握をしている。ご本人、ご家族、病院、事業所等に意見を聞き、実現できる事、できない事をしっかりと説明する事で、信頼関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご本人、ご家族等の希望を聞き、受け止めながら、関係を築く事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態把握の為に、しっかりと状況把握ができる様にし、職員通しで意見を持ち寄り、申し送り等で話し合い、より良い援助ができる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食器洗い、机の上を拭く等、入居者に負担の掛からない様なお手伝いをしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に、ご本人の趣味や一番輝いていた時代等についての情報を家族から聞き取っている。家族の面会時に、施設での生活状況について、説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話は持たれ、自分で自由に通話している人がいる。又、自分では架けられない人もいるが、職員が、家族の同意を得て、履歴をチェックし、架けても良い方には架け直している。	家族や近隣者の面会、誕生日には家族に利用者の状況を記載した手紙を送付したり、携帯電話利用者への支援を行うなど馴染みの人との関係性の維持に努めている。馴染みの場所への外出は家族の同行となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者ひとりひとりのできる事、できない事を理解して、レクリエーションを行っている。又、他のユニットの入居者との交流が持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の所は、サービス利用(契約)が終了の理由は死亡退所である。他の事業所に移動される場合は、相談や支援に努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中でのちょっとした発言の中の「本人の思い」を見逃さないようにしている。家族が面会に来られた時には、「こんな感じに生活したいのではないか」を確認する様にしている。	利用者や家族から思いや希望を聞いたり、入所時や介護記録からの情報を参考に一人ひとりの意向を把握している。また、意思表示が困難な場合には、口の動きやうなずき、目などの表情から把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に利用者のそれまでの暮らし、一番輝いていた時期等を聞いて、参考にさせてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態を全職員が把握できるよう、情報共有を行っている。又、排泄介助、入浴介助時等に、普段と変わった点があれば、報告連絡を行い対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の普段の生活から、意向を読み取れるようにしている。家族様の面会時に希望や意向を聞くようにしている。	介護計画の見直し時は、全職員に白紙のアセスメント表を渡し、利用者一人ひとりの状況を職員が記入し、その情報を参考にするとともに家族や主治医の意見を反映しながら、介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に毎日の状態を記録している。ケアプランは状態変化に応じた随時の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族等の協力を得て、外出、外食の機会を作っている。近隣の人も呼んで、「新田マルシェ」等を開催している。気候の良い時期には、敷地内での散歩を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員の参加がある。消防・警察に協力を求めている。防災については、防災・避難訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の主治医、又はかかりつけ医と連携を取りながら医療を受けられるよう支援している。施設の主治医により毎週往診を実施している。かかりつけ医の受診は、職員又は家族が同伴し、家族同伴の場合は、家族から報告してもらっている。	利用者や家族が希望する医療機関の受診支援を行っている。受診に職員が同行できない場合は、利用者の状態を時系列に記載したメモや医師の紹介状を家族が持参し、結果に関しては事業所と家族が情報を共有している。毎週、事業所の主治医や歯科医師による往診を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診に同行してくれる看護師や歯科衛生士との連携を図り、体調不良時には、看護師を通して主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	時に面会に行き、ご本人、病院関係者と面談している。できるだけ早く退院の受け入れができるように、情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族等に医療体制を説明し、同時に終末医療についても話し合っている。利用者の状態について主治医と連絡を常にとっている。	24時間必要とする医療行為はできない等の事業所でできること・できないことに関する指針を口頭で説明し、同意書をもっている。利用者の状態により、家族と主治医が話し合い、その都度確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、利用者の急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応やAEDの研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行い、地域の消防団の方と連携を取り協力体制を築いている。スプリンクラーは設置済み。	春と秋の年2回、夜間を想定した避難訓練や通報訓練を消防署と連携を図りながら行っている。避難経路は2階の利用者は外階段としている。備蓄品は米や水、高カロリーの菓子類を確保している。	大規模災害を想定して、運営推進会議などを活用し地域住民や関係団体との連携を図りながら、協力・支援体制の整備を行い、より具体的な対策を構築されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員を香川県認知症介護実践研修等の外部研修に積極的に参加させて、認知症の入居者への言葉かけや対応について勉強を行っている。	職員は外部研修や日頃の業務の中で、適切な対応方法を話し合い知識を深めている。また、職員間で利用者の状況を共有して、その人に合わせた言葉かけやジェスチャーを交える等プライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつは一種類だけでなく、選んでいただいている。レクリエーションも単一レクでなく、その入居者に合わせたレクリエーションを行う様にしている等、自己決定できる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーションへの参加も強制せず、本人の自主性に任せている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性はほぼ毎日ひげそりの声掛けをし、自力でできない人は介助している。室温、季節感を考慮して、その人のできる範囲でのおしゃれができる様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態により、食事やおやつの下膳及び食器洗いをしてくれる方もいる。	食事は業者委託であるが、主食の白飯を炊いたり、温めや配膳は事業所内で行っている。月2回のおやつ作りでは、切る・混ぜる・トッピング等は利用者と共にしている。現在は月1回の食事作りを計画中である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に合わせ、摂取量が少しでも維持できるように食事形態、食器、スプーン等に工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に声掛けし、手洗い・うがいをし、食後にも声掛けし、自力及び介助にて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を確認しながら、トイレ誘導を行っている。夜間おむつを使用しているのは一名のみである。	利用者の排泄パターンを確認しながら、排泄の自立支援を行っている。車いすの利用者のほとんどは、介助を受けずに見守りによる排泄をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲み物や、主食を粥などに変え水分を取れるように工夫している。医師と相談行い便秘薬なども服用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の曜日は決まっているが、その日の体調や本人の希望により、時間や曜日の変更を行っている。機械浴の設備がある。	入浴の回数や時間帯、ボディソープは利用者の希望に柔軟な対応を行っている。利用者の状態に応じた個浴や機械浴が準備されている。利用者は温泉水の入浴を楽しめるとともに、専任の入浴担当者による入浴介助は安心できる場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設でタイムスケジュールは決まっているが、本人の体調、気分、希望により、自由に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は基本的に一包化し、朝食後、昼食前、寝る前等刻印され、誤薬予防になっている。服薬状況を記録している。往診時に、状態について主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族に電話したり、新聞を読んだり、塗り絵をしたり、散歩に出かけたり、外出、外食、洗濯物たたみ等で、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎週、家族が迎えに来られ、外出、外食されている入居者もいる。気候や体調を見ながら、敷地内を散歩している。	利用者は敷地内の散歩を行っているが、事業所外の外出は原則、家族の同行が必要である。現在、希望者は花見や菊花展の見学に出かける機会を設けつつあるが、日常的な外出支援が今後の課題であり、業務改善会議で検討していきたいとのことである。	利用者が希望する日常的な外出や馴染みの場所への個別支援のあり方を事業所内で検討を行い、家族や地域住民、ボランティア等の協力を得ながら積極的な外出支援を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	一番しっかりした方は、自分でお金をもちたがらず、施設にすぐ預けられようとする。預り金については、家族と相談をしながら対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で携帯を持ち家族、友人に電話を掛けている方もいる。又、事務所の電話を使用して、かけている。家族へ手紙を書かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	景色がいつでも眺められるように作られており、窓から季節の花が見え田植えの時期などかえるの音が聞こえる等、季節を感じられる。ベランダで利用者と一緒に植物を育てている。	共用室は明るく、周囲の田畑や花木、蟬の声、2階のベランダには利用者一人ひとりが葉牡丹やひまわり、チューリップ等の季節ごとの花を植えて水やりを行い、季節を実感される場となっている。また広いホール内に観葉植物やソファを設置し、ゆったりと過ごせる雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを設けたり、音楽鑑賞できるように備えている。外の景色が見れるようになっている。利用者同士で会話を楽しんだり、一人で庭を眺めたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋にはエアコン、クローゼット、ギャッジベッド、寝具を常備している。ベッドの位置は本人が心地良く生活できるよう配置を決めている。本人や家族と相談しながら、家族等の写真を置き、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は広く、ギャッジベッド・整理ダンス・寝具等が準備されており、利用者の意向を尊重した配置となっている。また、利用者が大切にしている写真やぬいぐるみ、テレビ等も自由に配置され、居心地よく過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	クローゼットの中身は、常に同じ種類の衣類を入れて、戸惑いが無いようにしている。障害物は取り除き、自身で行動しやすく、安全に生活できるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を唱和し、実践に向けて取り組んでいる。理念①安らぎ、喜び、尊厳のある生活。②地域に根ざした愛されるホーム。③社会的責任を認識した安定的な運営。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が子供を連れて、敷地内で昆虫採集をする。地区の方を招待し、「新田マルシェ」を開催した時は、近所の高校生がボランティアで手伝いに来てくれた。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「新田マルシェ」の開催時等に、希望者に認知症についての資料をコピーして渡したり、説明する等認知症についての理解を深めてもらう様にしている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、活動状況報告、意見交換を行っている。議事録を回覧し、職員全体に周知サービス向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高松市のホームページの空き情報の公開に協力している。実践報告を通しての指導もある。また、本部から市へ取り組み状況を連絡するシステムがある。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。エレベーターの施錠を行っていないので、時に1階に降りる入居者もいるが、1階職員と連携を取って対応している。職員の勉強会で研修を実施している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞等で、虐待や事故のニュースがあった時には、話題にして注意喚起している。職員の勉強会で研修を実施している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が、香川県認知症介護実践研修等の外部研修に積極的に参加して、日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご本人、ご家族に重要事項説明書を一緒に見ていただきながら、十分な説明を行って、理解していただいている。契約後の質問にも対応している。改定の場合は、面会時やサービス担当者会議等で説明を行っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、必ず声掛けし現在の状態を説明しており、その時に家族からの要望も聞き取っている。直接、言いにくい場合もあると思われるので、意見箱を設置している。意見・不満・苦情を聞き前向きに生かすようにしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員用の意見箱を設置し、対応している。年に一回、異動の希望を自己申告できる制度がある。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のやりたい業務や改善点を会議で話し合い、実現可能か優先順位等を考慮し、できるものは、しっかりと話し合い取り組んでいる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	二ヶ月に一回は所内勉強会を行っている。認知症介護実践研修等の外部研修にも積極的に参加し、働きながらトレーニングしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員に、香川県認知症介護実践研修等の外部研修等に積極的に参加してもらい、他の事業所の職員と交流する機会を設けている。他の事業所から入居者の紹介をいただく事もある。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問、面談して、ご本人の状態把握をしている。ご本人、ご家族、病院、事業所等に意見を聞き、実現できる事、できない事をしっかりと説明する事で、信頼関係を作っている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご本人、ご家族等の希望を聞き、受容しながら、関係を築く事に努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態把握の為に、しっかりと状況把握ができる様にし、職員通しで意見を持ち寄り、申し送り等で話し合い、より良い援助ができる様にしている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食器洗い、机の上を拭く等、入居者に負担の掛からない様なお手伝いをしている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に、ご本人の趣味や一番輝いていた時代等についての情報を家族から聞き取っている。家族の面会時に、施設での生活状況について、説明している。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話は持たれているが、自分で掛ける事ができない入居者がいるので、家族の同意を得た上で、履歴をチェックし、掛けても良い方には職員が掛け直して、本人に通話してもらっている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者ひとりひとりのできる事、できない事を理解して、レクリエーションを行っている。又、他のユニットの入居者との交流が持てるようにしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年2月の開設の為、現在は、サービス利用(契約)が終了の理由は死亡退所である。他の事業所に移動される場合は、相談や支援に努めます。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中でのちょっとした発言の中の「本人の思い」を見逃さないようにしている。家族が面会に来られた時には、「こんな感じに生活したいのではないか」を確認する様になっている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に利用者のそれまでの暮らし、一番輝いていた時期等を聞いて、参考にさせていただいている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態を全職員が把握できるよう、情報共有を行っている。又、排泄介助、入浴介助時等に、普段と変わった点があれば、報告連絡を行い対応している。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の普段の生活から、意向を読み取れるようにしている。家族様の面会時に希望や意向を聞くようにしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に毎日の状態を記録している。ケアプランは状態変化に応じて、随時、見直しを行っている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族等の協力を得て、外出、外食の機会を作っていただいている。家族や近隣の人を招待して、「新田マルシェ」等を開催している。気候の良い時期には、敷地内での散歩を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員の参加がある。消防・警察に協力を求めている。防災については、防災・避難訓練を行っている。「新田マルシェ」を開催した時は、近所の高校生がボランティアで手伝いに来てくれた。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の主治医、又はかかりつけ医と連携を取りながら医療を受けられるよう支援している。施設の主治医により毎週往診を実施している。かかりつけ医の受診は、職員又は家族が同伴し、家族同伴の場合は、家族から報告してもらっている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診に同行してくれる看護師や歯科衛生士との連携を図り、体調不良時には、看護師を通して主治医に相談している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	時に面会に行き、ご本人、病院関係者と面談している。できるだけ早く退院の受け入れができるように、情報収集を行っている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族等に医療体制を説明し、同時に終末医療についても話し合っている。利用者の状態について主治医と連絡を常にとっている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、利用者の急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応やAEDの研修を行っている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行い、地域の消防団の方と連携を取り協力体制を築いている。スプリンクラーは設置済み。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員を香川県認知症介護実践研修等の外部研修に積極的に参加させて、認知症の入居者への言葉かけや対応について勉強を行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつは一種類だけでなく、選んでいただいている。レクリエーションも単一レクでなく、その入居者に合わせたレクリエーションを行う様にしている等、自己決定できる様にしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーションへの参加も強制せず、本人の自主性に任せている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性はほぼ毎日ひげそりの声掛けをし、自力でできない人は介助している。室温、季節感を考慮して、その人のできる範囲でのおしゃれができる様にしている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態により、食事やおやつの下膳及び食器洗いをしてくれる方もいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や摂取量に合わせ、摂取量が少しでも維持できるように食事形態、食器、スプーン等に工夫している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に声掛けし、手洗い・うがいを行い、食後にも声掛けし、自力及び介助にて口腔ケアを行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を確認しながら、トイレ誘導を行っている。夜間おむつを使用しているのは一名のみである。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自分から水分摂取を要求されない入居者もいるので、摂取時刻と量を記録して、水分を摂れる様にしている。主治医と相談し、便秘薬等の服用も検討している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の曜日は決まっているが、その日の体調や本人の希望により、時間や曜日の変更を行っている。機械浴の設備がある。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設でタイムスケジュールは決まっているが、本人の体調、気分、希望により、自由に過ごしていただいている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は基本的に一包化し、朝食後、昼食前、寝る前等刻印され、誤薬予防になっている。服薬状況を記録している。往診時に、状態について主治医に報告している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族に電話したり、新聞を読んだり、塗り絵をしたり、散歩に出かけたり、外出、外食、洗濯物たたみ等で、気分転換を図っている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週、家族が迎えに来られ、外出、外食されている入居者もいる。気候や体調を見ながら、敷地内を散歩している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一番しっかりした方は、自分でお金もちたがらず、施設にすぐ預けられようとされる。預り金については、家族と相談をしながら対応している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で携帯を持ち家族、友人に電話を掛けている方もいる。又、事務所の電話を使用して、かけている。家族へ手紙を書かれている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	景色がいつでも眺められるように作られており、窓から季節の花が見え田植えの時期などかえるの音が聞こえる等、季節を感じられる。ベランダで利用者と一緒に植物を育てている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを設けたり、音楽鑑賞できるように設備している。外の景色が見れるようになっている。利用者同士で会話を楽しんだり、一人で庭を眺めたりしている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋にはエアコン、クローゼット、ギャッジベッド、寝具を常備している。ベッドの位置は本人が心地良く生活できるよう配置を決めている。本人や家族と相談しながら、家族等の写真を置き、居心地よく過ごせるような工夫をしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	クローゼットの中身は、常に同じ種類の衣類を入れて、戸惑いが無いようにしている。障害物は取り除き、自身で行動しやすく、安全に生活できるようにしている。